

山崎 勝之 鳴門教育大学大学院教授
予防教育科学センター所長

予防教育⑥

この前は、小学校3年の授業を見た。だからこそが落ちる授業であった。小3から中1まで同じ理論と共通方法で貰かれる授業開発者が自慢していた。別に学生でそのことを確認したい。

しかし、純粹に研究畑から出た教育が、実際に学校現場でその実践を見せつけるとは…。しかも、見てもらって勝負だと自信満々。トップダウンではなく、草の根的に広まりたいとも言っていた。踏みつけられても枯れないなこの教育は。

▼感情の教育の位置付けと基本方針

授業には、これまで強調してきた「感情の理解と対処」が含まれている。感情の教育は、感情に気付き、理解し、対処（対応）するという、三つの要素とその流れが重要になる。

感情の気付きは、自分や他の操作目標がくる構成は自己信頼心（自信）の育成のための操作目標を達成するための操作目標を達成するための方法が続く。

▼授業は発展し続ける

予防教育の授業では、子どもたちの活動をどうするかが重要なところである。予防教育の授業では、子後に修正をかけ、発展させられるのが理想となる。

▼実際の授業例 その2

いじめ問題に立ち向かう

-28-

防教育センターは過去3年かけて授業を開発してきました。そして今もなお、授業実践が終わるたびに授業は改善していく。この授業は行き着くところがない。それほどに、理論が示す授業の在り方は深く、発展する余地を残し続ける。

開発された授業をそのまま実施するのもよいが、学校教員が、理論を理解した後に修正をかけ、発展させられるのが理想となる。

そのため、クラスの児童と勇者の感情に焦点が当たる。者はこの問い合わせる。感

意について問われる。水を

溶かす雪の結晶を手に入れ

るために、クラスの児童と勇者

はこの問い合わせる。

者たちはこの窮地を

救うため、國民に女王の氣持

持ちを、女王に國民の氣持

ちを気付かせる勇者を探し

出し、國を救つ旅に出る。

周囲に12の窓があり、そこ

に四つの気持ち小型カード

元を活性化（活発から不活

用）を書く。各グループは

手元の同色の小型カードに

同じ気持ちを書く。ここで

心理学で有名な円環モデル

が登場。これは、感情の次

元を活性化（活発から不活

用）を当てるはめる。そ

の理由も考える。小学

生には高度過ぎる課題

だ。なのに、どの児童

も真剣なのなぜだ。

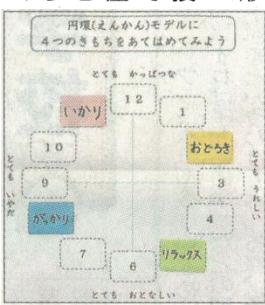
児童は考え込む。そ

の沈思が、次の活動ク

ライマップスでの爆発

を予言する。

感情の種類を理解し、対処へ



位の目標となり、その下に六つの下位目標、さらに18

(徳島県鳴門市鳴門東小学校)

「他者の感情には種類がある」と意味で、児童が作った円環モデル

(A3判シート)